

## ICTで故郷に恩返し

NTT東日本山形支店長

渡会 俊輔氏



昨年の7月にNTT東日本の山形支店勤務となりました。県内での勤務は初めてですが、鶴岡市の出身で、高校時代まで県内で過ごしましたので、ある程度は、山形の事は知っているつ

もりでございました。高校卒業以降、県外で過ごすようになってから、県外の友人・知人に山形の良さを知ってもらおうと、山形旅行を企画してガイド役をかって出たり、山形まで足を運ぶことができないときでも、東京の山形の郷土料理を出す店に連れて行ったりしていました。そこで、芋煮やどんがら汁を奨めながら「芋煮は、野外で焚火を囲んで食べるのが、どんがら汁は外の地吹雪の音を聞きながら食べるのが最高だ。次は本場？に食べに行こう。」等と勝手なお国自慢をしていました。

しかし、高校卒業以降、日本の各地で暮らし、当時から30年以上経過した目で、改めて県内の各所を見て回り、地域のいろいろな方にお話を伺うと、私が山形について知ったつもりになっていたのは、ごく一部にすぎず、自然、文

化、歴史、食べ物とお酒、そして何よりも人の温かさ・懐の深さ等において、格別の土地であるということを再発見し、この地で皆様と共に仕事をさせて頂ける幸せを実感しております。

私が昨年の7月に着任して、約7か月が経ちました。その間、コロナ禍の中で、山形花笠まつりを始めとする多くのイベントが中止となり、日常生活においても、対面での交流や人の行き来が大きく制約される中で、県内の社会・経済活動も非常に大きな影響を受けました。そのような中、追い打ちをかけるように、県内の自然災害では過去最大の被害額を出した7月の豪雨による水害、更には年末・年始にかけての豪雪による雪害と、これまでに経験をしたことが無いような災害が続きました。

そのような非常時においても、地域の社会・経済活動が途切れることが無いように、NTTグループは、ライフラインである通信を守り続けることに尽力してまいりました。特に、コロナ禍においては、感染拡大防止の観点から、テレワークやオンラインビジネス、更には、人手を介さずに効率的に業務を進めるためのDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進にも取り組んでおります。

コロナ禍がきっかけとなり一気に進んだテレワーク等の動きですが、今後、コロナの収束状況如何に係わらず、こういった社会全体のDXに向けた大きな流れは変わることはないと考えています。加えて、大都市から地方へのシフトが、現実の動きとなってきており、地方にとっては大きなチャンスが到来しています。

このような大きな変化を前にして、NTTグループは、ICTを通じて、地域のお客様のDXのお手伝いをさせて頂き、この地域が持っている魅力、企業のサービス・技術、人材の力を最大限生かすことによって、地域の活性化、山形の明るい未来の創造に貢献して参りたいと考えております。